

# 地域畜産振興部門

岩手県岩手郡葛巻町

社団法人 葛巻町畜産開発公社

(代表：理事長 中村哲雄)

限られた地域資源を最大限に  
生かし東北一の酪農の町に  
＝公社を核とした地域支援の実践＝



地域を支える公社職員

岩手県葛巻町は、北上山系の北部に位置し、標高 1000m 級の山々に囲まれた山間地帯にある人口約 8500 人の町である。3 年に 1 度は冷害に見舞われ、傾斜地の多い高冷地で、稲作等の耕種部門に不利な地域であり、小規模ながらも古くから多くの経営に乳牛が導入されていた。公社は、この乳牛（酪農）を町の基幹産業として育成する役割を担い、酪農を中心に据えたさまざまな振興活動に取り組んでいる。

昭和 40 年代の町の酪農は、1 戸当たり飼養頭数 4 頭と小規模経営が多数を占めていた。町では安定した基盤の酪農経営を確立するため広域農業開発事業を導入し、山あいの台地や山頂付近の平坦地を草地開発し、さらに「酪農の機能分担（ほ育・育成、搾乳、採草）」と「地域酪農経営の支援・振興」の拠点としての役割を担うことを目的として、昭和 51 年に町、農協の出資（のちに財産区も出資）によって社団法人葛巻町畜産開発公社を設立した。

公社の特徴的な活動としては、第 1 に酪農技術の実証展示である。①実証展示搾乳牧場の運営による先進技術や施設の実証（低コスト牛舎、搾乳牛舎、環境対策施設など）、②不利な土地条件下での草地造成と飼料生産技術体系の確立、③乳製品製造のモデル施設の導入などを実践してきた。このように地域の酪農家を牽引するべく、率先して先進技術やモデル施設の導入等に取り組み、その成果・成績を町内酪農家に普及し、技術の向上等に貢献してきた。

第 2 は、酪農家の業務代行である。①夏期預託放牧、②ほ育育成事業、③酪農ヘルパー事業（現在は農協へ移管）である。これらの業務について、県外からも高く評価される技術を保有し取り組んできた結果、町内酪農家の省力化がはかられ、乳牛の個体管理等への労働の振替を可能にし、規模拡大に貢献してきた。

第 3 に高水準の実践技術を生かした人材育成である。公社では、酪農後継者や関係機関の職員などに対する研修事業に取り組んでいる。この研修事業は、町外の公共牧場や県外からも受け入れを行っており、広域な人材育成となっている。なお、公社では設立以降、率先して企業的管理能力と技術の向上のために積極的な職員育成の取り組みを行っており、このことが信頼される業務代行と研修事業における人材育成ノウハウにつながっているのである。

このほか、加工製造した乳製品の販売や宿泊交流施設の運営、農業体験活動の実施など多角的に活動を展開することで、地域の雇用を創出するとともに、公社、町の酪農・農業、そして町そのものの PR にもつながっている。なお、これらの多角的な事業展開は、企業性と採算性を追求した企業理念をもって取り組まれており、公社自身の活動、それによる地域の酪農を安定的かつ継続的なものに行っている。

以上のように、公社は、酪農家に対する支援活動に加えて、地域農業、農村地域の活性化の重要なモデル的な活動拠点として位置付けられた活動を実践してきた結果、町を「東北一の酪農郷」に発展させた。

## ▼会社の各事業所

傾斜地を長年かけて造成したみごとな草地



くずまき高原牧場



上外川高原牧場



袖山高原牧場

## ▼実証展示：低コスト牛舎

カラ松の間伐材や選挙掲示板の廃材を利用した低コスト牛舎



## ▼哺育育成場

哺育育成場も、間伐材や廃材を利用したカウハッチを職員自ら作成し利用するなど、実証展示をふまえて実践している



## ▼傾斜地での収穫作業

傾斜地でのロールベラーを先進的に導入し、高冷地でのデントコーンと牧草の輪作体系を確立



## ▼牛乳・乳製品等

公社内のプラントで生産される牛乳・乳製品等

